

《学部消息》

5 月理学部会合日誌

- 1 日 (水) 14:00~15:00 主任会議
8 日 (水) 13:00~17:30 会計委員会
13:30~15:30 教務委員会
14:00~15:40 人事委員会
15:00~17:00 将来計画委員会
13 日 (月) 14:00~16:30 理学系研究科委員会
15 日 (水) 13:00~16:30 教授会
20 日 (月) 12:30~13:20 学部長と理職との定例交渉
22 日 (水) 15:00~17:30 将来計画委員会

教授会メモ

5 月 15 日 (水) 定例教授会

理学部四号館会議室 13:00~16:30

1. 前回議事録の承認
2. 人事異動等の報告
3. 昭和 49 年度受託研究員の承認
4. 研究生期間延長の承認

5. 人事委員会報告 (木原)
6. 教務委員会報告 (霜田)
 - i) 51 年度入学生に対するカリキュラム改訂の検討
 - ii) 大学入試期日についての国大協アンケートの検討
7. 将来計画委員会報告 (黒田)
8. 高エネルギー物理学実験施設長の選出
小柴教授が選出された。なお高エネルギー物理学実験施設運営委員は小柴、藤井、西島、山本、釜江各教官
9. 総合大学院構想について
理系からでいただく委員は渡辺教授にお願いした。
10. 5 月祭資金の援助について
11. 全学関係委員の留任および交代
 - i) 原子力センター (運営委員) 久保委員 (留任)
 - ii) 教育用計算センター (運営委員) 後藤委員 (留任), 藤田委員 (新任)
(業務委員) 朽津委員 (留任)
12. 会計検査終了の報告

13. 学生大会（流会）についての報告
14. 院生交渉についての報告
15. アイソトープの放射線障害防護施設について
整備案の提出は浜口教授に
16. 5月祭教室使用について（佐々木）
17. 文書通達配布について（佐々木）
最近往々にして締切直前に関係者の手にとどく書類があがる、これらの遅延の原因を調べ、迅速な配布を心がけてもらうこと、また毎年きまった時期に行なわれる、調査、募集等の書類については、一覽表の作製など何らかの便宜を考えてもらうことなど
18. 浅野地区号館の消防関係運営委員会の発足について（福島）
19. 廃棄物処理全学委員会について（藤原）
20. 会計委員会報告（吉川）
概算要求書案について説明があり討論が行なわれた。
21. 環境安全に関する委員会、図書に關係する学部全体の委員会をつくることの提案（藤原）
22. 全学公開講座について
今年度秋のタイトルは「天災と人災」

人 事 異 動

(助 手)							
教室	官職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考		
物理		望 月 忠 男	49. 5. 1	助手に採用			

外国 人 客 員 研 究 員

教室	国 籍	氏 名	現 職	研究期間
化学	ポーランド	Henryk Kozlowski	WROCLAW 大学助教授	49. 5. 1～50. 3. 31

5 月 海 外 渡 航 者

教室	職名	氏 名	渡航先国	渡航期間	渡 航 目 的
物理	教授	山 崎 敏 光	アメリカ合衆国 スウェーデン	5. 1～ 7. 31	ミュー中間子スピン回転の実験および核反応・核崩壊による超微細相互作用会議に出席のため
化学	教授	斎 藤 信 房	オーストリア	5. 11～ 5. 19	ホットアトム化学理論に関する専門家会議出席のため
物理	教授	吉 川 庄 一	オーストリア	5. 11～ 5. 19	第5回 IAEA 核融合国際会議論文選考会出席のため
地 質	教授	木 村 敏 雄	インドネシア	5. 19～ 5. 25	国際地質対比計画 (IGCP) 東南アジアシンポジウムに参加のため
物理	教授	久 保 亮 五	スペイン, フランス, イタリア	5. 21～ 6. 10	統計力学国際スクール・量子エレクトロニクス国際スクール出席および量子力学の研究連絡のため
人 類	助教授	尾 本 恵 市	オーストラリア	5. 18～ 6. 2	蛋白多型から見た太平洋地域人類集団の遺伝的多様性についての打合せのため

地物研	助教授	国 分	征	アメリカ合衆国	5. 20~50. 4. 2	磁気嵐の研究のため
物 理	助 手	石 岡	俊 也	アメリカ合衆国	5. 10~50. 5. 2	結晶転位の動力学に関する研究のため
地 質	助 手	堀 越	叡	カナダ	5. 18~ 6. 18	プレートテクトニクスおよびメタロジェニーに関するシンポジウム出席および野外巡検

理 学 博 士 学 位 授 与 者

昭和 49 年 5 月 13 日付授与者

専門課程	氏 名	論 文 題 目
物 理 学	秋 光 純	準二次元磁性体 $MnTiO_3$ の臨界現象
同	大 生 光 明	Glauber 理論の拡張
学位視則第 3 条 2 項該当	細 谷 暁 夫	Ultraviolet Behavior of Renormalizable Field Theories. (繰り込み可能な場の理論の紫外部のふるまい)
同	小 西 芳 雄	非線形半群の研究
同	伊 藤 猷 頭	電磁波ビームに関する研究

理職と学部長の交渉

5 月 20 日 (月) 12 時 30 分~1 時 20 分

出席者：学部長、事務長ほか 5 名、理職委員長ほか 9 名。

議 事：

1. 本部から各学部宛てて 4 月 11 日のストライキに関する措置の対象として現認したとする人物の確認依頼が出ているそうであるが、理学部の場合はどうなっているか、との理職の質問があり、学部長事務長から現在のところ理学部にはその種の依頼はないとの返事があった。

2. 理職から理学部五号館建設の進行状況について質問があり、理職として厚生施設、理職の部屋の拡充など要望したいものもあるので、何時頃までにどこへ要望すればよいかを知りたい。厚生施設としては例えばシャワーとか、せめて自動販売機をおけるような食事の出来る部屋などがあろう。理職用の物置として配電室のとなりの小屋を物理から借用したが、物置程度の部屋も配慮して欲しいこと。部屋の配置は研究第一ではなく人間第一で考えて欲しい等の要望があった。

これに対し学部長、下郡山評議員から次のような回答があった。五号館は予定よりおくれていて、基本設計がやっと来月出来るぐらいの段階である。完成は 50 年度の終りを希望している。五号館には数学と地鉱が入る予定であるが、部屋割などについてはこれから詰めるべき

点も残っているので教室内でたしかめられたい。厚生施設などの要望はその号館の人々が、その号館の建物委員会へ教室を通して申入れたらよい。五号館は必ずしも余裕がある訳ではなく、むしろ余裕がない方になるかも知れないことを知っておいて欲しい。数学と地鉱が出たあとの利用計画の立案については、号館によってベースがまちまちだが、学部としては基礎的な線をまとめはじめたという段階である。

3. 理職から一号館の出口が午後 6 時以後一ヶ所になることにより、最近設置された非常口の標識が役に立たなくなっている問題について善処を要望した。学部長から安全問題については力を入れたいと思っているので、上記の件に限らず問題があったら各号館運営委員会へ申出られたい。防火訓練も近くやろうと思っているとの発言があった。

4. 理職では 5 月 23 日 (木) に処分反対、警察の弾圧に抗議、新大管法教頭法反対のためにストライキを行なう計画であるとの通告があった。ついで臨時措置法に対する学部長の考えをただし、新大管法に反対されたいとの要望をした。

学部長は、ストライキに対する大学の解釈と措置がどんなものかは、今までの経過をみることにより理解されていると思う。その上に立って諸君の良識ある行動を期待したい。大学の自治のためには十分な努力をしたいとの返事をされた。

お 知 ら せ

京都大学原子炉実験所昭和 49 年度下半期共同 利用研究の公募について

1. 申込資格：原子炉による実験およびこれに関連する研究を行なうもので、国公立大学国公立研究所の正規の職員とする。
2. 申込方法：申請書一通提出（中央事務にあり）
3. 申込期限：昭和 49 年 6 月 29 日（土）（必着）
4. 申 込 先：大阪府泉南郡熊取町 京都大学原子炉実験所、共同利用掛（共同利用研究申請と封筒に表記のこと）
5. 審 査：研究題目の採否、所要経費の査定等は原子炉実験所運営委員会において行ないます。
6. 採否決定：昭和 49 年 7 月下旬

理学部紀要の新刊

“理学部紀要”（欧文）の次の 3 点が発行された。

Section IA Mathematics Vol. 21, No. 1

（掲載論文 7 篇）

Section III Botany Vol. XI, Nos. 8-9

（掲載論文 2 篇）

Section V Anthropology Vol. IV, Part 4

（掲載論文 2 篇）

編集後記：“科学閑想曲（講談社）”などの名随筆をものされている水島先生の随想“ノーベル賞をとかしたお話”は、はじめてきく方が殆んどでしょうか。木原先生の論文には、写真もお願いしましたが、慎重な先生は、広報の紙質を配慮されて、辞退されました。後記の如く興味のある方は、先生に実演をお願いして下さい。パイプオルガニストの馬淵久夫氏が、化学の馬淵先生であることをつい最近知りましたので、早速一文をお願いした次第です。吉野事務長の戦争中の懇親会の記事は、理学部史の一駒を語っています。理科の学生にも、なかなかの文学青年がいるという好例が福山氏（地質、藤井研）でしょうか。Leggett 氏は、日本物理学会誌に、日本人の英語の寸評を書いたりしていたので御存知の方も多いでしょうが、物理・和田（靖）研に一年ほど滞在、この程母校 Sussex 大に帰られました。書評のスタイルは、全く自由ですが、4 月から数学教室の助手になられた谷島氏の文体も、読者をうなずかせます。

もう 1 冊、7 月 10 日号を発行して、8、9 月は夏休みとし、10 月 10 日号から再刊します。11 月 10 日号以降の原稿について、自薦他薦をとわず御協力よろしく願います。

訂正：先号から表紙の動物写真と解説をお願いしている重井先生の所属は、動物でなく臨海です。先号のミスをおわびします。

編集：

〔小 堀 巖（地理） 理 2 号館 205 号室 内線 6449〕
〔清 水 忠 雄（物理） 理 1 号館 372 号室 内線 2783〕